

社会生活を営む上で少しでもまずい事があると原因を国のせいにしがちです。国の政は本来正道でなくてはいけません。がしかしながら、世界の国々は自国の国益を第一に考える為、なんとなくギクシャクしております。又、昔から権力には虫がつきやすいものです。暗黙の了解として **政治は力、力は数、数は金でつくれ**と言われています。私は政治の事は良く知りませんが各党派は衆議院も参議院も過半数の賛成票を獲得する為に力を注いでいるようです。国を修める為の議員の素質は何か、昔々その昔、国を修める為に仏教を取り入れ、乱世の時代を平穩に収められた聖徳太子のような **「ころくばり」**ができる人物をいうのでしょうか。

仕事とは「仕」は主人に仕える。「事」とは先輩に仕える。職は天職といい、自身が決めているように思いますが実は天から与えられているのです。嫌々仕事をすれば仕事に嫌われ、仕事を好むようにすれば仕事に好まれる。仕事を通じて社会に貢献するから報酬が頂け家族を養う事ができます。仕事をこの身に合わせる事ができれば、仕事が合う、即ち、仕合せが頂けるのです。人として職域を全うするとともに大切なのが地に足を付ける事です。地に足を付けるとは地の恵みを頂き地に根を張り、小木から大樹に成長させる事です。是即ち、天地の融合が家門の繁栄成り。家にあつては如何に**天地の恩恵を受ける事ができるか**が成否を分けることになると思います。ここで注意しなくてはならないのが相続です。折角の身代も相続に由って枝葉をもぎとられ大樹も枯れてしまう事があるからです。仏教は過去・現在・未来世が揃って良き結果が生まれるとしています。祖父母が過去・父母が現在・孫が未来を担っています。孫の為には前二代が才徳を兼備し社会貢献をする事が望まれます。

松原泰道師が山本玄峰老師に教えを受けた中で私もなるほど感銘した話が御座いますので御紹介致します。『心配という言葉があります。心配と申しますと、我々は心の痛みを想定しますが、玄峰老師は自分の痛みを味わう事では無く、相手に対して**心を配る事**を勧められたそうです。その理由として**物を配る人はいるけれど、温かい心を配れる人は少ない**と。『おっしゃったそうです。』温かい心を配って人々の心を癒す事に因って、配った温かい心が自分のもとに大きくなって還ってくるのです。是を佛教では還相廻向と言います。即ち、心の痛みと訳す意も消され自然と温かい気持ちに包まれる事になるのです。私達は毎日人様と接する機会があります。誰しも合えば必ず別れが待っています。でも 又会いましょう」の別れの挨拶は時期を特定する言葉ではありません。一度の別れが一生の別れと成るやもしれません。**信仰する者はどんな巡り合いにも 心温まるもてなし**を心掛けたいものです。心を配る事が出来なければ人様のグチを呑み込む壺にでもなりたいたいものです。壺はグチをこぼさず漏らさず。